

5.19

■司会 田島 恭子〈佐賀県〉 勸孔子の里 事業担当

松尾 透〈長崎県〉 野母崎町教育委員会社会教育課 課長補佐

1. 公民館を拠点とした学社連携「楽行共育」の試み 10:45~11:10

松島 俊枝〈島根県〉 田井公民館 主事

キャッチフレーズは「公民館は地域の茶の間」である。とにかく人々が立ち寄ってくれない限り公民館の施設機能は発揮しようがない。そこから昼は「喫茶店」、夜は「酒場」から出発し、午後は「児童館」をともなった。人々の参加が増加し、「世代間交流」を目標とした各種の学社連携事業を一年を通して展開した。結果的に、学校の協力と参加も得て、文字どおり地域ぐるみの活動を展開している。コミュニティにおける学社連携の具体的な活動は、出会いの機会を作り、交流を生み出し、遊び心を提供し、最終的に地域を活性化した。人々のネットワークを作ったのは公民館のフットワークである。

2. 「わらべサークル協議会」

11:10~11:35

— 童話によるまちづくりの成果と展望 —

藤野 吉子〈大分県〉 わらべサークル協議会 会長

玖珠町では、日本のアンデルセンといわれた童話の父九留島武彦先生を記念し、毎年日本童話祭が開かれている。そうした文化的風土の中で、各種ボランティアサークルによる「童話の里づくり」が進められてきた。昭和58年に結成された「わらべサークル協議会」は現在24団体、会員約950名を擁し、「子どもと夢を」を合い言葉に、児童文化の向上に関わる様々な活動を展開してきた。平成6年度には「ふるさとづくり大賞」、内閣総理大臣賞を受賞。活動の場としては社会教育施設はもちろん保育園から老人ホームまで多様な舞台を活用し、内容は伝統文化の継承、自然体験、童話を素材として人形劇・お話しなど子どもの関心を掘り起こすべく多様な試みに挑戦している。

3. 長期通学キャンプの教育効果と学社連携の方法

11:35~12:00

九野坂明彦〈福岡県〉 庄内町立生活体験学校 社会教育主事

少年問題の根本は生活体験の希薄化であるという観点から、体験の「場」を補完する「通学合宿」という方法を開発して年間20回実施している。当初はキャンプ場から通学するという形態であったが、昭和63年から「生活体験学校」という拠点施設を設置して、より総合的・多角的な体験プログラムを継続している。類似のプログラムは、平成11年度現在、全国153ヶ所で行なわれているが、庄内町の実践はその方法論上の原型モデルを提示したものである。

4. 総括討論

12:00~12:30